東北風景写真家協会会員向け会報「東風季報」第３号です。当会報は会の行事、活動計画、各種のお知らせ、撮影適所、撮影テクニックなどの記事を掲載しております。

東風季報

第３号
２００８年3月1日
発　行
東北風景写真家協会
編集　秋葉　進藤

２００８年 鈴木登会長 新年度のご挨拶

新年度を迎え、会員の皆様に一言ご挨拶申し上げます。

前期を振り返りますと、当協会のハイライトはなんと言っても第一回写真展ではなかったかと思います。皆様方のご協力により無事終了し、当協会の存在を充分アピールする事が出来ました。ご来場者数もまれに見る多数の方をお迎えする事が出来、「本当に楽しい、写真展でした」・「私も会に入りたい」等反響も様々でした。

また、写真展と言えば、当協会々員の菊田さんが北海道の丹頂鶴をモチーフにした「北・彩・詩」を発表し、ご来場者に深い感銘を与えました。これも当協会のレベルの高さを知らしめたのではないかと感謝いたしております。

さて、そこで次の写真展は誰かな？と言うことになりますが、会員皆様方が〝よーし〟と言う気力、体力をもって個展に向け、作品作りに挑戦してみては如何でしょうか。ひとつの目標に向かって努力することは、なんと素晴しい事ではないでしょうかと思います。間もなく美しい日本に花の季節がまいります。会員の皆様、傑作を目指し外に飛び出しましょう。

新年度会報に寄せて

顧問　竹内　正

東北風景写真家協会も3年目に入り、本格的な活動に入ろうとしています。

昨年は二年目にもかかわらず、第1回の写真展を開催出来、大きな反響があり存在感をＰＲすることが出来ました。事務局及び幹事さんの大変な献身的努力とご苦労の賜物と感謝申し上げます。

又太平洋写真学校のパンフレットに広告を出したことにより、全国に宣伝することも出来ました。

会員が増えるにしたがって運営も難しくなると思われますが、風景写真愛好家の底辺の拡大により、美しい日本の風景を記録して後世に残す機会も増えることを願っております。

今年も協賛の撮影ツアー開催により会員各位の撮影の機会を多くすること、基本的な撮影技術の向上を目的にセミナーの開催を行いたいと思っております。

会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念して年度初めのご挨拶と致します。

春を写す「さくらの撮影」

顧問　竹内　正

「春」万物が目覚め生き生きと華やぐ季節でもあります。冬の寒さと戦いながら頑張ってきたカメラマンにとっても、活動しやすい絶好な季節となります。春の代表的な花であり、日本人の心の故郷である「さくら」の撮影について基本をもう一度考えて見ましょう。

まず撮影目的をはっきりさせます。「花として撮るか」、「風景として撮るか」、「作品として撮るのか」、「記録として写すのか」、により考え方、撮影方法も変わってきます。基本的に美しいものは美しくが原則ですが、作品とする場合には感性を最大限に出す必要があります。

撮影の基本

さくらには数多くの種類があります。品種により撮影法も変わります。

一・「染井吉野」人工種で身近に多いが、色が薄く一番撮り難い品種です。光を読み、半逆光を選び白飛びを防ぐ、スカイライトフィルターで色を補う、色フィルターは濁りが出るので不可。

二・「エドヒガン」「紅枝垂れ」「山桜」色が濃いので比較的撮り易い、ＰＬフィルターを使い余分な反射を抑えて、色を調整する。

花の撮影

一・クロースアップ、花つき、形を選び背景を大きく「ボカ」す、被写界深度の活用、背景の色にも留意する。柔らかく表現するには、プラス〇・五～一・〇の補正をする。

二・枝付きの花、枝の形、花付きに注意し、リズム感をだす

三・光線を選ぶ、反逆光により立体感と奥行きをだす。

風景としての撮影

一・樹形及び、背景を選び周囲の雰囲気に合った樹、樹群を選ぶ

二・周囲の他の花、池、川等と上手に組み合わせる。

三・作品として纏めるには、雨、霧、散り花等も活用する。

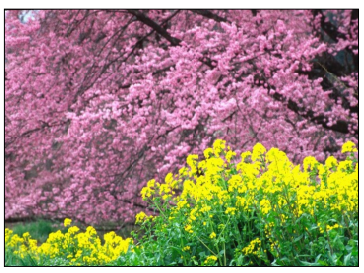
四・露出補正、メリハリを付けるには、マイナス〇・五程度を基準とする。

記録としての撮影

一・基本的には晴天を選び綺麗に、説明的に写す。

二・作品的な撮り方を捨てる。

半逆光・枝の形・リズム感



花との組合せ・メリハリ

第一回東北風景写真家協会　写真展「美しい日本」での展示作品の撮影内容を松本幹事さんが集計し、報告していただきました。ご参考までにご覧下さい

1．県別撮影地
福島　15点　宮城　11点　山形　9点
静岡　3点　長野　３点　岩手　2点
群馬　1点　新潟　1点　北海道　1点

2．撮影季節
夏　23点　秋17点　春　7点　冬　5点
不明　2点

3．撮影時間
日中　33点　朝方　14点　夕方　8点

4．使用レンズ
望遠系33点　広角系11点　標準10点

5．撮影場所（重複あり）
湖沼14点　山岳、山地14点　滝8点
池4点　公園内4点　湿地2点　海2点
平地、市街地2点

6．撮影対象物（重複あり）
水面、水鏡16点　朝焼け9点　花9点
緑、樹9点　滝8点　水の流れ7点
光、光線4点　里山、山岳5点
紅（黄）葉5点　雲、もや5点
氷、雪4点　夕焼け4点　新緑若葉3点
太陽2点　空2点　虹1点　鳥1点

7．写真の印象色（重複あり）
深い緑14点　緑11点　深紅、赤10点
白8点　黄土色、黄色系6点　灰色4点
青色3点　桃色3点　黒1点

第1回目の写真展ということで不断の行動、好みの写真が素直に表現されました。結果として県別撮影地では「うつくしま福島」の通り福島県の写真が多く、撮影場所は水辺に関わるところが圧倒的で、撮影時期も初夏が多い傾向、色彩も緑系が全体の4割以上を占めるものとなり、タイトルの通り「美しい日本」の象徴を素直に示すものとなりました。　（松本　隆幹事）

以上の様な分析結果をご報告頂きました。次回の写真展でも是非、「美しい日本」を素直に写した作品を沢山ご用意下さい

ダイヤモンド富士撮影ツアー報告

二月六～八日の日程で東北風景写真家協会企画のダイヤモンド富士撮影ツアーが開催されました。初日は雪が舞う天候でしたが、翌日からは好天に恵まれ、新雪を被った優美な富士山を撮影することが出来ました。竹内顧問のお話では一〇年に一度有るか無いかの綺麗な富士山とのことでした。ダイヤモンド富士をはじめ綺麗な作品を東北カラーデュープさんの店内に展示しますので是非ご覧にお出掛け下さい。

次回撮影ツアーのお知らせ

次回の東北風景写真家協会協賛の撮影ツアーは六月九日～十一日迄の二泊三日で綺麗な海と美しい風景がふんだんにある「佐渡」に参ります。日本海に沈む夕日撮影や小木のたらい舟、宿根木の街並み、美味しい海の幸等楽しさ一杯です。是非共、ご参加下お待ちしています。

残雪と新緑 月山 志津

月山は豪雪と山岳信仰で知られていますが、今回は山麓の志津付近の新緑風景を紹介します。

五月に入るとブナ林は冬の名残と新緑が同居し、淡彩色の風景が日ごとにコントラストを増してきます。月山を背景に芽吹いたばかりの若葉と地蔵沼、快晴なら新緑と青空、曇の日にはブナの樹肌と根開き、さらに霧雨なら最良の条件となり、根元の雪面から霞が湧いて幽玄の世界となる。この時期には雪も固まり、長靴でブナの森を自由に歩けるのも被写体探しに好都合です。皆さんの感性で、レンズを通して森の息吹を表現してください。

月山山麓には山形自動車道を月山ＩＣでおり、一旦月山湖の上方を渡り志津方面の登り道に入ります。志津の五色沼、地蔵沼から望む残雪の山々もカメラに収めたいものです。志津を過ぎると左手に山形県立自然博物園があります。ネイチュアセンターには展示や案内の資料があり、いろいろ教えていただくことができます（五月より開館）。また、無料で園内ブナ林の案内をして下さるので（午前九時三〇分および午後一時三〇分より）、初めての方には利用をおすすめします。例えば午前中にガイドツアーに参加し、午後は自分の気に入ったところで写すのもよいでしょう。

撮影コースの一例を参考に示します。ネイチュアセンターから歩いて約二〇分のリュウキンカ広場で撮影し、ここから登ること約二〇分のところでブナの根開きや木立などを写します。このあたりは大木を残す原生林のたたずまいです。さらに東に移動すると周海沼に出ます。その年の積雪や凍結の状況により、氷の融け方も異なり神秘的な様相を呈します。この付近を撮影しながらネイチュアセンターに戻る約半日のフォトトレッキングコースです。このあたりは一ｍ以上の雪におおわれ標識はないので、霧がかかったときなどいつでも戻れるように注意が必要です。

なお、四月一〇日ごろから月山の夏スキーが始まり、マイカーも姥沢駐車場まで入れますので、この付近での撮影にも便利になります。

（齊院　登）

撮影地情報

花見山

今や花写真のメッカとなった感のある花見山は、四十余年前に、花木栽培農家が農園を一般公開したのに始まる。

花の会を主宰する写真家秋山庄太郎氏に「福島に桃源郷あり」と賞賛され、花愛好家、写真愛好家に全国的な花の名所として知られることとなりました。個人の好意により無料で皆さんを受け入れて下さることに感謝して、百花繚乱の花の里を楽しんでいただきたい。

さて、花見山は福島駅の南東四ｋｍ程の山間で、春には山全体が色とりどりの花に覆われ、桜や桃、レンギョウ、ボケ、サンシュユ、モクレンなどが咲き競う。花見山は、周囲の花木栽培地も一体となって桃源郷をなしている。その多くは斜面であるのでそれを利用したフレーミングができるだろうし、天気がよければ遠く残雪輝く吾妻連邦も望まれる。

花見山がにぎわうのはやはり桜の季節である。この期間は花見山へのマイカーの乗り入れは規制され、約四ｋｍ離れた阿武隈川沿いの臨時駐車場からシャトルバス（有料）を利用する。

電車や高速バス利用の方は、ＪＲ福島駅東口から出る観光バス「花見山号」が便利であり、花見山直通に加えて市内遊覧も可能である。またタクシーを利用すれば花見山の近くまで短時間（一五分ほど）で行くことができ好都合である。

なお、福島は果物王国であり、四月末には桃などの花の回廊を楽しむことができる。さらには、ユニークな花の写真館を訪ねれば印象も深まるであろう。（秋葉　健一）

桜の季節　東北を愛でる

毎年四月になれば東北地方にも桜の季節がきて写真撮影の本格的な稼動開始となる。東北は全国にも名だたる桜王国であり、なかでも弘前の桜は全国一であろう。城址公園の桜は他にも会津若松、米沢、上山、山形、横手、盛岡、三戸などすばらしい春の景観となる。一本桜では福島の三春、田村、岩代、会津、山形の置賜、小国の樽口峠、西蔵王、岩手の小岩井、盛岡など。また桜の名所も、宮城の柴田、田尻の加護坊山、岩手の北上、秋田の角館、大館、また夜桜がきれいな福島富岡など思い起こすだけでも見所は多い。

なぜこんなにも東北には桜の名所が多いのでしょう。みちのくの春は梅や桜などの花がいっせいに咲き、厳しい冬の寒さから解放され、喜びを心待ちする風土が桜を愛でるからではないだろうか。

東北地方で一番早く桜が咲くのはいわき地方、そして福島、仙台、山形と続く。そこから北へ北へと進む。会津の奥、山形小国、小岩井、弘前は五月を迎えてからの見頃となるので、津軽を経て下北に至るまでゆうに一ヶ月掛けてみちのくの桜を楽しめる。

仙台の後一週間過ぎ三春周辺では滝桜を始め多くの一本桜が見頃を迎える。以前三春周辺を回って仙台に帰ってから三春の町長に、三春の愛姫が伊達正宗に嫁いだのに仙台には三春の桜がないのは残念だと書いて送ったことがある。その手紙が功を奏したのか数年して三春の方々が仙台に来られ、式典を行いながら西公園に植樹された記事を新聞で読んだ時は喜んだ。

東北の出向きたい桜を絞りながら、地元の新聞を買うと詳しい花だよりが載っているので、それを参考にしながら東北の桜を毎年時間を掛けてじっくりと探ってみたいものです。

（松本　隆）

写真・・こんな話、あんな話
第２話

写真って、店によって違うの？

前回は、写真を注文する店を選びましょう。という話をしました。実際、注文をする時いろいろ、相手の都合もあるのです。そこで、今回は「写真って、店によって違うの？」という素朴な質問に迫ります。

自分でプリントする一部の人は別にして、ほとんどの人は「プリント」をお店に頼んでいるでしょう。そこで、お店の人は「親身になって」あなたの写真を仕上げてくれます。と、思いたいです。でも、お店の規模や方針によって仕上げ方も違います。

まず、写真をプリントする「機械（通称・ミニラボ）」によって仕上がりに違いがあります。ミニラボのタイプには大きく分けて次の二通りがあります。

①アナログミニラボ（主にネガフィルム専用プリンター）

②デジタルミニラボ（ネガ、リバーサル、デジカメ、ＣＤＲなどからプリント可能）

現在大きな写真店はほとんど、②のミニラボです。街の写真店も半数以上はこのタイプに切り替わっています。

アナログミニラボは、フィルムを透過した光を印画紙に露光してプリントを作ります。

デジタルミニラボは、フィルムをラインＣＣＤでスキャンして、そのデータをレーザー露光装置で、印画紙に焼きます。仕上がりに違いがあります。

アナログミニラボで良いプリントを作るには、「職人技」が要求されます。微妙な色や濃度の修正に「塩梅（あんばい）」的、匙加減も時には有効です。デジタルミニラボは、細かな補正まで忠実に実行します。データが保存され、修正が簡単です。今日入ったパートさんでもちょっとの訓練で使えます。デジカメからもＯＫです。でも、作品創りにはどちらのミニラボでも「写真」を良く知っている「職人さん」の技が必要です。職人技を駆使すれば、遜色ないプリントに仕上がります。

自分の行っている店の「ミニラボ」と「職人技」を熟知しましょう。（丸山慎一）

お譲りします

ニコン純正交換レンズ
ＡＦ・ＭＩＣＲＯ・ＮＩＫＫＯＲ
１０５ミリＦ2.8Ｄ　（フード付）
単焦点レンズで写りは大変シャープです。￥２５０００－（進藤）

編集後記

もう直春ですね！東風季報の今月号は春特集で竹内顧問の「春を写すさくらの撮影」から始まり、山形の斉院さんには残雪と新緑の月山を秋葉編集長さんには福島の花見山を松本幹事さんには東北のさくらの名所をご投稿いただきました。又、丸山幹事長さんには先月に続き写真に関するお話を頂いています。皆さんのお役に立てれば幸いです。この会報も会員さんのご協力が有って成り立っています。今後もドシドシご投稿をお願いします。進藤